三河本苑だより
１月号
2022.1.No.476
（発行者）
大本三河本苑
〒443-0031
蒲郡市竹島町２８-５
TEL 0533-69-7518
FAX 0533-69-1455

令和４年　新年ご挨拶　　大本三河本苑長　加 藤 三 樹

三河本苑設立50周年記念秋季大祭に「和合の姿」をお見せしましょう！

三河本苑の皆様、明けましておめでとうございます。本年、三河本苑は設立５０周年の佳節を迎え、１０月１６日に５０周年記念秋季大祭を執行致します。

平成２５年５月、教主さまがご臨席されました本苑設立40周年記念春季大祭で野田篤文本苑長は、「５０周年は新しい神の家で迎えたい」と表明されました。教主さまのお力添えと、三河本苑の皆様の総智総力とまごころの献金、そしてお祈りのおかげで、教主さまにお約束しました通り、５０周年記念秋季大祭を　新しい神の家で迎えることができる運びとなりました。改めて、皆様に感謝申し上げます。

新しいご神殿は４月末に完成し、大神様、市杵島姫命様の遷座祭は５月末に執り行います。その後、今使用しているご神殿を解体し、駐車場等の外構工事を行い、全工事が完了するのは８月末の予定です。

記念大祭にあわせて、５０年記念誌を発行します。皆で和合して、役割分担しながら活動を進めている編集メンバーや原稿作成者に、改めて感謝申し上げます。記念誌では、三河本苑の２つの足跡、「不動の信仰への足跡」と「新しい神の家建築の足跡」を紹介します。楽しみにお待ちください。

また本年は本苑デジタル化の推進元年とし、記念大祭に目に見える一つの型を出したいと思います。

５０周年記念秋季大祭を

① 新しく立派に建った神の家で

② 本苑活動の歩みを記念誌で振り返りながら

③ デジタル化の一つの型を出して

当日を迎えたいと思います。記念事業の集大成の年です。引き続き、よろしくお願いいたします。

「神の家建設献金箱」のまごころへのお礼

１１月月次祭後に、ご神前大広間に設置しています「神の家建設献金箱」を開けて集金させていただきました。**２２万９８２４円**もの多額の献金を頂戴しました。皆様のまごころに改めて感謝申し上げます。有効に使わせていただきます。引き続き、ご協力をよろしくお願いいたします。

【聖師様の愛善の道】

かんながら神のまにまに何事も
つとめゆく身にあやまちはなし
今日もよし明日もまたよし何事も
神の心にまかす身なれば

「教本３級認定講習会」合同開催のご案内

●日　時/**1月22日(土) 23日(日)** 両日共：9時～17時
●開催地/**名古屋分苑（名古屋・三河・三重合同）**
●持ち物/実践リーダー教本「初級編」、筆記用具

若い世代の方、教本３級を未得の方、また今年度宣伝使に推薦される方にはこの機会に受講をお薦めします。
申込み、参加費等詳細は決定次第各機関に募集案内を送ります。

「七草粥」中止のお知らせ

令和４年１月月次祭での七草粥は「神の家」建設中の為、中止致します。

1月の行事

●1日(土)
本苑新年祭午前十一時
●16日(日)
本苑1月月次祭
●22日(土)・23日(日)
「教本３級認定講習会」（名古屋）
名古屋・三河・三重合同

2月の行事

●20日(日)
本苑2月月次祭

◆新役員(責任役員)紹介

祭務局長に就任して

祭務局長　河合恭久

引続き祭務局長をさせて頂きます河合恭久です。

山口稔起(祭務担当副参事)、調子真一(新祭務部長)とタッグを組んで、皆様の指導をさせて頂きます。

私自身、諸先輩の指導の中、数多くの経験をさせて頂き、場慣れして自信をつけきました。

コロナ禍の中、幸いにして葬儀があまりありませんでしたが、最近また増えてきております。祭員、司会はもちろん、伶人に関しましても多くの人に経験を積んでいただき、分所支部はもとより、本苑の月次祭での祭員ご奉仕をして頂き、自信をつけてほしいと思います。新しい神の家も今年5月には完成します。

「祭式講習会」「葬祭研修会」etc、力不足ながらサポートさせていただきます。よろしくお願いします。

教務局長の就任に当って

教務局長　永田修三

この度、三河本苑の教務局長に就任いたしました正徳分所の永田修三です。教務担当(責任役員)として初めての大役ですので、不安いっぱいの気持ちです。

右も左も分からないので本苑長をはじめ諸先輩方と相談しながら事を進めていきたいと思っています。

また今回から新しくデジタル化という宣教方法も立ち上がりました。「ツールはデジタル、心はアナログ」をモットーに推進していきたいと思います。

若い人からお年寄り、未信徒の方までご理解いただける様に、「内に深く、外に広く」教主さまのお示しを常に心がけて、宣教活動を若人たちと共に力を合わせて考えて行きますので、宜しくお願いします。

尊師さまに学ぶ

真剣―交情―勤勉（後編）

特任宣伝使　芝田豊海

「日出麿先生之旧稿(下巻)」より　昭和二年　八月

仕事をすれば損がいく様に思う人があるが、これは大変な間違いである。いやいやする仕事は別であるが、その気になって仕事をすれば、ただけは霊的に自分の所得となっているのである。

損がいくように思うのは、物質的に考えるからで、なるほど仕事をすれば、頭を使うし腹も減るし、一時体力も減ずる様であるが、頭の疲れは少しの休息で治(なお)るし、腹の減るのは飯を旨く食えて却(かえ)って体力の増進となる。

これを霊的に観れば、その仕事を覚えるという事だけでも、確かにその人に或る力がついたわけで、まして、その仕事を一つの模型として普遍的に会得する霊的の所得というものは、実に偉大なものである。

この理がよく分からぬ人は、なるべく仕事を避けよう、楽に居ようとしたがるものだが、神からの内流は、何か真の仕事をしている場合でなくては、確実にその人の全身に流れ入るものではない。況や歩かずに行こう、遊んでいて賢くなろうとするのは言語道断である。

スピノザは貧しくて硝子玉を磨き乍ら、あれだけの大哲学を組立てたという。どうせまだ不完全な世の中であるから、その仕事に囚われ、縛られることなく、広い大きい心で、その仕事を自己に従属せしめて、その中に自己一流の境地、興味を見出し造り出すように努めることが最も肝賢(かんじん)である。斯(こ)した心掛けでさえあれば、どんな仕事に従事していても霊魂恩頼(みたまのふゆ)は得られるものである。霊魂恩頼というのは、文字通り自分の霊魂の増大する事であって、人間が肉体的にはいろんな食物をとって運動をして増大してゆくと同様に、精神的には何か実地に事をしている間に神よりのお光りによって次第に悟りを開いて霊魂の増大する事をいうのである。

肉体的の糧は全く物質界より賜わるのである。而(しか)も物質界は型の世界であるから、肉体の増大もほぼ一定しているけれども、精霊界は無限本体の世界であるから、その増大も亦無限である。

人間はどうせ神からみれば不完全極まるものであるから、いかなる人間も謙虚な気持ちで機会さえあれば、少しでもよく多くの事柄を会得して・神の僕(しもべ)としての務めを尽くす様に心がけねばならぬ。こうする事が一面また自己を力づける方策なのである。

連載　大本こぼれ話

「人間は一つ世界」

「瑞祥新聞」大正14年7月21日

特任宣伝使　松永孝司

聖師曰く、全自然界はこれを総体の上から見ても、分体の上から見ても、ことごとく霊界と相応がある。ゆえに何事たりとも、自然界にあってその存在の源泉を霊界にとるものは、これを名づけて、その相応者というのである。

そして自然界の存在し永続するゆえんは霊界によること、なお結果が有力因によって、存するがごときを知るべきである。自然界とは太陽の下にあって、これより熱と光とをうけるいっさいの事物をいうものなるがゆえに、これによって存在を継続するものは、一として自然界に属せないものはない。されど霊界とは天界のことであり、霊界に属するものはみな天界にあるものである。

人間は一小天界にして、また一小世界である。しかしてともにその至大なるものの形式を摸して成るがゆえに、人間のなかに自然界もあり、霊界もあるのである。その心性に属して智と意とに関せる内分は霊界をつくり、その肉体に属して感覚と動作とに関する外分は自然界をなすのである。

ゆえに自然界にあるもの、すなわちかの肉体およびその感覚と動作とに属するものにして、その存在の源泉を彼が霊界に有する時は、すなわち彼が心性およびその智力と意力とよりおこりきたるときは、これを名づけて相応者というのである。